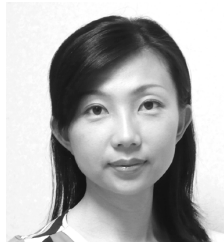




## 子育てライフ・産むまで編



愛知淑徳大学心理学部心理学科専任講師

### 久保 (川合) 南海子

(くぼ (かわいい) なみこ)

2002年、博士号取得(日本女子大学)後、京都大学霊長類研究所にて研究機関研究員、日本学術振興会特別研究員(PD)。2007年、京都大学こころの未来研究センター助教を経て、2009年より現職。

今号からの新コーナーとして「心理学ライフ」がはじまりました。ここは、趣味や休日の過ごし方、子育てやペットの話題など、研究以外の人物像やライフスタイルを自由に語っていただくコーナーです。まずはひとつを編集委員が担当することになりました。これからこの新コーナーをよろしく願いいたします。

#### 就職か？ 子どもか？

##### どちらも問題です

まだ常勤職に就いていない女性研究者は、就職もさることながら、結婚や出産のタイミングについてもいろいろと悩まれると思います。私は博士課程を満期退学した時に結婚し、その翌年に博士号を取得しました。子どももそのうち欲しいと思っていましたが、「まずは就職」という気持ちが強くありました。子育ての後に復帰できる職場もない状況で研究のキャリアを中断する、という選択はなかなかできるものではありません。単年度契約のポストドクを2年、それから3年間の学振PDに採用されてのんびり研究生活をしているうちに、最終年度になっていました。就職は決まっていませんでした。

学振の特別研究員には育児休暇で採用期間を延長できる制度があります。就職もままならない状況を考えて、この制度を利用して子育てモラトリアムも悪くないと思いました。とはいっても、妊娠も就職も巡り合わせ。どちらもそれなりにリミットのあることですが、ここから数年はどちらか先に

決まったほうに全力で取り組もうと思いました。しかし、そう覚悟を決めたとたん、なんと妊娠と就職は同時にやってきたのです。私は新幹線で名古屋から京都まで通勤する妊婦となりました。

#### しんどいながら感謝の日々

私が就職した京都大学こころの未来研究センターは、当時、発足したばかりでした。そこでは、研究の立ち上げから事務雑用まで多くの仕事がありました。私は新しい環境での新たな研究に心躍りながらも、一方で出産のために長期休暇を取らなければならない心苦しさにいっぱいでした。悩んでいても仕方ないと意を決して、センター長である吉川左紀子先生にお話すると、先生は聞くなりパッと笑顔になり「それはすばらしい、おめでとう！」とおっしゃってくれたのです。一瞬の迷いもなかった先生のお顔を私はいまでも忘れません。そして同僚となった助教の皆さんは、自分の仕事の負担が増えるにもかかわらず、いつも私を励ましてくれました。初めての就職に初めての妊娠という、まさに手探りの毎日をどうにか無事に過ごせたのは、職場の皆さんに恵まれたからと深く感謝しています。

また、だんだんおなかの重くなってくると名古屋から京都への通勤がしんどくなりました。夫の実家は、妊婦のノロノロ速度でも京都大学から30分くらいなので、そこに帰って泊まらせてもらうこ

ともしばしばでした。恐縮しつつも上げ膳据え膳で楽をさせてもらい、お義母さんには本当にお世話になりました。

#### ほとけ作って魂入らず？

妊娠中に電車で通勤しているとよく席を譲られるのかなと思っていましたが、実はほとんどありませんでした(でも京都には外国人観光客が多くてその人たちはよく譲ってくれました)。そんな話をポストドク時代の上司である正高信男先生にすることがあります。すると、先生は連載している新聞のコラムで「育児支援の制度を整えることに躍起になっても、働きながら産もうとする女性を思いやる心がなければ少子化はとまらない」ということを書いてくれました。たしかに、子育てをする女性への支援はずいぶんよくなっています。それを活かしていくには、周囲の温かさが大切なのですね。あのキーホルダーをみると、当時の自分の気持ちを思いだして、席を譲っています。

母子手帳と一緒にもらったこれ。通勤靴

につけてましたが、これみよがしに席を譲らせるのもいやだし、かといって見えなきゃつけてる意味がない。ちなみに夫は、このキーホルダーをつけている人に席を譲るのはセクハラみたいな気がして抵抗があるそうです。譲るそうです。



悩ましきキーホルダー